

⑮少年自然の家の陶芸窯（穴窯）の利用者増加が図れるよう、老人会・地区コミュニティ協議会等へ利用について周知されたい。

⑯川内川を生かしたスポーツ推進事業（川内川河口マラソンウォーキング大会）等、川内川を利用したイベントを把握し、同時開催等について、関係課と協議し検討されたい。

⑰市民スポーツ課の運営として、市民を対象に幅広く活動を行い、地区コミュニティ協議会の設立趣旨を踏まえ、同協議会体育部会等への支援の在り方について検討されたい。

⑱入札制度改革について、条件付一般競争入札参加資格等、制度の周知を図るとともに、出前講座等を開催し業者の理解を深め、あわせて受注機会の増加を図るなど業者育成に努められたい。

⑲青色回転灯（脱着式）装着車の循環等、防犯に対する抑止効果の向上が見込めることから、薩摩川内地区防犯協会と設立予定である四十八地区コミュニティ協議会連絡会との連携を図られたい。

各特別委員会 報告

各特別委員会は、次の項目について審査を行いました。

原子力発電所対策調査 特別委員会

委員長 上野 一誠

一月三十日開催
薩摩川内市国民保護計画における川内原子力発電所に関する事項について審査を行った。

まず、当局から、薩摩川内市国民保護計画の概要や同計画案等について、報告・説明を受け、その後、原子力発電所への武力攻撃時の緊急停止等の対応、原子力災害の規模想定、住民避難と自衛隊活動の優先度、テロ攻撃時の対応、避難誘導等の市長権限、甌島の避難計画等について質疑を行った。

次に、本委員会の運営方針として、これまでの二年間の協議事項を基本とすることはもちろんのこと、明確なテーマを持って調査・研究等を重ね、必要に応じて電気事業者等に出席を要請するなど状況に応じた的確な委員会運営を行い、市議会として市民への説明責任を果たしていくことを確認した。

二月十四日開催

（一）川内原子力発電所一号機・二号機の運転状況について当局か

ら、一号機は三月二十八日に第十七回定期検査を終了し、二号機は六月二十日に第十六回定期検査を終了し、それぞれ通常運転に復帰していること、また、気体・液体廃棄物の放出量は年間放出管理目標値を大きく下回り、十二月末現在の固体廃棄物の貯蔵量は一万一千七百三十七本（貯蔵容量の約六十九％）及び使用済燃料の保管量は一千四百九十九体（貯蔵容量の約六十三％）であるとの報告を受け、更に、一号機主変圧器及び所内変圧器取替工事の概要の説明を受け、その後、使用済燃料の搬出計画、搬出がない場合の保管可能年数、使用済燃料の保管方法の安全性、固体放射性廃棄物の搬出計画について質疑を行った。

（二）川内原子力発電所に関連する諸問題について当局から、環境調査の概要及び環境アセスメントの手續の流れ並びに一月末現在の環境調査の進捗状況として、地質調査についてはボーリング本数九十六本が完了するなど進捗率九十二・六％、気象調査については九月二十九日に終了し進捗率百％、環境影響評価については現況調査の実施中で進捗率五十八・五％であること及び雇用状況の報告・説明を受け、その後、地質調査において北西部地震等の過去の震源地

及び出水断層等の断層地帯の調査の有無について質疑を行った。

なお、審査の過程において、耐震指針に関しては過去の事例だけでなく、新しい事例等も調査することなどの申し入れを行い、想定外だったということがないよう行政の声を伝えられたい旨の意見が述べられた。

次に、協議会を開催し、原子力発電所の概要等について、当局から説明を受けた。

交通体型整備対策調査 特別委員会

委員長 寺脇 幸一

二月五日開催

（一）川内港の港湾計画及び利用促進について

①川内港の港湾計画について川内へ甌航路を見据えた川内港の整備、浮き桟橋の整備、檢疫港の指定、合併後の課題である甌航路に対応する可動橋等の整備が必要であること等について、港湾計画に係る課題として、本市が整備を要望している施設の中には、港湾計画上での位置付けが必要とされる施設があること、港湾計画の改訂の動向と今後の見通しについては、平成十九年度以降川内港港湾